

令和 3 年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属中学校	校長名	佐野 淳
幼児・児童・生徒数（R4.3.1 現在）	613	学級数	15
2 教育目標等			
① 学校教育目標	調和的な心身の発達と確かな知性の育成、ならびに豊かな個性の伸長を図るとともに、民主的社会の一員として人生を主体的に開拓し、進んでは、人類社会の進展に寄与することができる人間を育成する。		
② 学校経営方針	<p>本校は教科教育の伝統を受け継ぎながら、筑波大学の附属学校としての先導的教育拠点、教師教育拠点、そして国際教育拠点という役割を果たすとともに、すべての教育研究は「教育課程研究に帰一集中する」という本校の伝統的な考え方にもとづきながら、教科教育はもとより、総合学習や学校行事、特別活動など教科外教育の研究・実践にも取り組むことで、学校目標の実現を目指す。</p> <p>教育研究においては、現代的な教育課題（教育の ICT 化等）に応えるべき研究課題を設定し、教育内容・方法の側面より研究を行う。感染症拡大防止になお一層の注意を払い、必要な対策を講じていく。</p>		
③ 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 将来構想委員会を中心にしながら、本校の将来構想を検討し、併せて小中高との連携をより一層進めていく。 2 GIGA スクール構想の理念に沿った、ICT 機器を用いた授業実践を、積極的に開発していく。 3 6月の教員免許状更新講習や、11月の研究協議会では本校の教育研究・教育実践を外部に発表していく。これらの成果のみならず、本校の教育実践や研究成果を、積極的に発信していく。 4 オリパラ教育について継続研究し、グローバル人材の育成に資するカリキュラムを開発する。 5 大学や、他大学の附属学校との連携を推進する。 6 教員の負担軽減のため、トラブル発生を未然に防ぐしくみを整える。 		
④ 前年度（令和 2 年度）の成果と課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 将来構想についての意識の涵養に努め、具体案の提案や検討へ進む下地を整えた。 2 各教科における学習指導の実践研究を推進し、研究協議会や研究紀要として発信した。オンデマンド学習のコンテンツを充実させ、「指導計画」を公開する等、4~7月の学習支援教材は充分であった。しかし附属小以外の小学校から入学した新入生は、附属中学校の学習形式に慣れておらずまた、コミュニティも構築されていなかったため、本人や家庭が孤立している様子であった。学習活動を支える「見えないリソース」の重要性に対する認識と生徒たちへの手助けが不十分であった。 3 より先導的な教育実践を行うべく、グローバル人材育成カリキュラムの研究を行ったが、時間的な制約から研究活動より教育活動を最優先させた面があった。 4 大学や他附属との連携を図りながら、オリ・パラ教育の推進を図った。お茶の水女子大学附属学校の提携校進学は、小中の第 4 回目を、中高の第 3 回目を実施した。 5 HP の更新、学校案内パンフレットの刷新等、非対面での本校の教育実践の広報活動を充実させた。 6 校内ネットワークを整備し、情報セキュリティシステムを整えた。教員の意識向上と規範励行のための支援も充実させた。GIGA スクールについては、大学の方針が十分に伝わらず、担当者は資金面でも苦勞していた。 		

3 重点目標達成についての総括的評価

コロナ禍への対応の知見が蓄積されてきた中、前年度より、より望ましい形で教育活動を実施できるようになった。また、1人1台端末の実現により、ICTを用いた効果的な学習方法・技術・教材の開発が飛躍的に進んだ。また、教科領域のみならず、行事的学習や、HR活動や実践的活動においても、ICTを用いた活動のプラットフォームが整い、教員・生徒双方がそのスキルを向上させることができた。これにより、育てたい資質の育成に向けて取り組んでいくことができた。

4 令和4年度の学校課題

長期の準備が必要な活動、例えば学芸発表会や宿泊行事などは、実施の可否や形態が感染状況に左右されてしまうため、状況が悪化しても実現できる形態を選択せざるを得なかった。そのため、本来実施したい形式で行うことができなかった。この活動で養われるはずであった資質の育成を補填する努力を行ったが、その効果については、長期的な視点で判断していく必要がある。

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

ICTの効果的な活用のためには、環境整備も重要であり、積極的に行った。そのための資金調達も積極的に行い、ICT環境は劇的に改善した。本校の教育成果の発信についても、研究協議会の他に、いくつかの教科が研究成果の発表会を行った。オリパラ教育についても、オリパラ役員を務めた報告会を行うなど、成果の還元を行った。

6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

所報 第71号（2021年5月）
教育課程研究 総合学習研究 46（2021年5月）
第49回研究協議会 発表要項（2021年11月）
研究紀要 第74号（2022年3月）

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

令和3年度

学校名

筑波大学附属中学校

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-7	コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業の状況	環境整備とともに、教員のスキルとアイデアを生かした授業展開が広がり、劇的に授業の内容や方法が変化し、成果をあげられるようになった。
1-2-1	学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	コロナ禍により制限がある中、教育活動の本質的なものや根源的なものに対して、教員自身が試行錯誤する中で理解を深めていった。
1-2-6	部活動など教育課程外の活動の管理・実施体制の状況	安全な活動に対する教員間の理解が深まるとともに、健康管理アプリの利用や、コーチの充実などの体制が整った。
3-1-5	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携協力による教育相談の状況	機動的に対応できており、必要に応じて外部の機関につなぐなど、学校・家庭・地域・外部機関が連携しながら、生徒や家庭の課題を軽減することができた。
3-2-6	社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）についての指導の状況	奉仕活動・活動に即したふり返り活動・情報モラルや情報リテラシー講習会等を実施した。
4-1-4	日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断の実施の状況	健康管理アプリを利用して、生徒自身が体調の自己管理を行うスキルが向上した。健康診断においては事前・事後指導を行い、自身の健康や成長・発達についての理解を深めた。
7-1-4	学校の財務運営の状況（資金の予算執行に関する計画、執行・決算・監査の状況等）	運営費交付金の激減に伴い、外部資金の調達必要性が増え、弾力的・機動的な学校運営に支障があった。
10-1-3	児童生徒の個人情報の保護の状況	校務サーバーに情報が格納されていることや、個人情報の校外持ち出しを行わない方針が徹底しており、十分に達成されている。
10-1-6	情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	生徒の個人情報保護に留意しながら、月1度の学校だよりを掲載する等、積極的に行った。